

氏名	添田啓子	部署	看護学科	職名	教授
研究分野	小児看護学				
学位	博士(看護学)				
学歴	1980年聖路加看護大学看護学部、1992年聖路加看護大学大学院研究科(博士前期課程看護学専攻)、2005年兵庫県立看護大学大学院看護学研究科博士後期課程。				
経歴	1986年聖路加看護大学助手、1993年埼玉県立衛生短期大学看護学科講師、1999年埼玉県立大学保健医療福祉学部看護学科講師、2005年同助教授、2008年同教授。2015年文部科学省専任教員資格審査博士後期課程D〇合				
所属学会(役職)	日本小児看護学会、日本小児保健協会、看護科学学会、日本看護学教育学会				

【2015年度実績】

1. 研究業績					
	著作・論文・学会発表等の名称	単著・共著の別	(1)発行所、全ページ数 (2)雑誌名、巻(号)、開始-終了ページ (3)学会名、開催都市	(1)(2)著者、編者名 (3)発表者(発表者は〇印)	発行・発表年月
(1) 著作					
1	看護実践のための根拠がわかる小児看護技術	共著	メヂカルフレンド社、第2版	編者:添田啓子、鈴木千衣、三宅玉恵、田村佳士枝	2016.1
2	看護実践のための根拠がわかる小児看護技術、1章 小児看護の実践に向けて	共著	メヂカルフレンド社、第2版	著者:三宅玉恵、添田啓子	2016.1
3					
(2) 論文					
1	該当なし				
2					
(3) 学会発表					
1	親のケア能力・子どものセルフケア能力獲得を支援する看護師の教育指導力の促進—平成24・26年度意識調査結果から捉えた看護師の看護過程の変化—	共著	日本小児看護学会第25回学術集会、千葉市	櫻井育穂、添田啓子、勝本祥子、西脇由枝、田村佳士枝、望月浩江、松本宗賢、株崎雅子、近藤美和子、渡部和子、久保良子、伊藤美佐子	2015.7.26
2	幼少期に血液腫瘍を経験し晩期合併症や治療による影響を抱えて生活している思春期の子どものもつ親の体験	共著	日本小児看護学会第25回学術集会、千葉市	越雲美奈子、櫻井育穂、添田啓子	2015.7.25
3					
(4) その他					
1	こどもセルフケアカンファレンスの企画・開催 「オレムセルフケア理論の視点を取り入れた臨床での実践」講演	オレムセルフケア理論を基盤とした「こどもセルフケア看護理論」の構築研究班	千葉市 幕張	添田啓子	2015.7.26
2	こどもセルフケア ケアモデル構築のためのワークショップ企画・開催 「こどもセルフケア理論 看護のとらえ方」講演	オレムセルフケア理論を基盤とした「こどもセルフケア看護理論」の構築研究班	東京 築地	添田啓子	2015.12.13.
3					
2. 競争的資金等の研究					
	競争的資金等の名称	研究名、研究代表者・研究分担者の別			研究期間
1	科学研究補助金基盤C	親のケア能力・子どものセルフケア能力獲得を支援する看護師の教育指導力の促進、研究代表者			2013-2015
2	科学研究補助金基盤A	オレムセルフケア理論を基盤とした「こどもセルフケア看護理論」の構築、研究分担者			2014-2017
3					

3. 教育業績			
	講義・演習・実習・論文指導等の名称	期間	概要(教育内容・方法等において工夫した点)
(1) 講義			
1	大学院博士後期課程 次世代育成看護論	前期 1コマ	添田の研究論文「幼児の術後回復を促す看護としての相互作用プロセス」を紹介し、質的研究の研究プロセス、研究意義、研究方法等について、説明した。
2	大学院博士前期課程「保健医療福祉研究法特論」の質的研究法	前期6月(4コマ)	保健医療福祉の研究のうち質的研究法について、その特徴、適する研究課題、研究方法について概説した。データ収集方法として、インタビューと分析について、文献抄読の演習を行った。学生はグループで模擬インタビューを行い、そのポイントを確認したことで、質的研究のデータ収集と質的研究の意味について、理解できたと述べていた。
3	大学院博士前期課程看護学専修看護理論	前期	科目概要:まず、自らの看護観・看護実践を振り返り、グループメンバーと討議し、看護とは何かを検討し、看護理論を学ぶ意義を確認する。次に看護理論が構築される背景を理解し、要素、主要概念、理論構造について学ぶ。臨床で使われる看護理論について学び、理論を用いて実際に事例分析を行う。さらに、ナイチンゲール看護論、意図的な看護実践を行うために活用する方法を学ぶ。また、理論をつかった看護の可能性を検討する。 添田は科目責任者として、全体の企画運営を行った。また、リフレクション講義・演習(2コマ)、オレムセルフケア不足理論講義(1コマ)、理論を用いた事例分析グループワーク演習(3コマ)、レポート評価を担当した。
(2) 演習			
1	大学院博士後期課程 次世代育成看護論	前期	学生が関心を持った次世代育成看護に関連する研究論文を抄読し、文献批判を教員と学生で討論した。
2	学部看護学専門科目4年次 こどもと家族のヘルスプロモーション	前期	子どもと家族の健康課題について、グループの課題学習をするための事例を作成した。学生は課題事例を通して、子どもと家族の課題状況を分析し、健康の促進・または改善をするために必要なことをグループで検討・発表で共有した。
3	学部看護学専門科目3年次 小児看護学Ⅳ	前期	免疫力の未熟な乳児が下痢嘔吐を伴う急性消化器感染症に罹患し、重度の脱水により入院し、検査・処置・入院をする事例を用いて、PBLとロールプレイ、状況学習を含んだ学内技術実習を行った。評価はワークシート、記述テスト、技術試験を用いて行った。
4	学部看護学専門科目2年次 小児看護学Ⅲ	後期	免疫力の未熟な乳児が下痢嘔吐を伴う急性消化器感染症に罹患し、重度の脱水により入院し、検査・処置・入院をする事例を用いて、PBLチュートリアルで、事例の対象理解と発達像・健康像・生活像の把握、全体像の把握、回復を促す看護の方向性の検討を行った。
(3) 実習			
1	小児看護学実習	後期11-12月4年次	子どもの病気・障害や療養の状況に合わせて、生命力の消耗を最小限にし、健康に向けて生活過程を整える看護を実践する。また、子どもとともに子どもの療養を支える家族も看護の対象ととらえ支援する。これらの実践を通して子どもの対象特性を理解し、子どもの看護に必要な知識・技術・態度を修得する。
2	総合実習	前期7月	既習の知識やこれまでの看護実践を踏まえて、看護学における自己の学習課題について看護活動を通して探求し、専門職者に求められる総合的な看護実践能力を身につける。【小児看護学領域における学習のねらい】 1. 子どもの発達段階、療養状況に応じた、個別的な看護過程の展開を学ぶ。 2. 子どもと子どもの療養を支える家族を包括的に捉えた看護について学ぶ。 3. 小児看護の実践に必要な知識や看護方法を探究・実践し、その効果を確認することを学ぶ。
3	IPW実習	10月	IPW実習の目的に応じて、4年次学生6名を指導した。また、現場で実習中の薬学部学生3名も含めてIPW実習を行った。

(4)論文指導				
1	学部4年次生 「生体肝移植のドナーとなる親の臓器提供までの認識過程」	通年	胆道閉鎖症の子どもに生体肝移植で臓器を提供した親の体験記ブログ4件を対象に質的記述的研究を実施し、卒業論文の作成を指導した。	
2	学部4年次生 「若手看護師が子どもの死を乗り越える体験」	通年	看護師として病院において小児看護の経験が3年以上ある者で、看護を通じて関係性を築いた子どもの死を若手看護師時代に経験し、乗り越えた者4名に研究協力者を得て半構成面接を実施、質的記述的研究を実施、卒業論文の作成を指導した。	
3	学部4年次生 「被虐待児の愛着形成を促す関わり」	通年	0～3歳の被虐待児をケアしたことのある乳児院の職員4名に半構成面接を実施し、質的記述的研究を実施、卒業論文の作成を指導した。	
4	学部4年次生 「入院した病児のきょうだいへの情報提供」	通年	幼児期後期から学童期に自分のきょうだいが入院し、病児への母親の付添い、または長時間の面会があったことを経験した本学学生4名に研究協力者得て、半構成面接を実施、質的記述的研究を実施、卒業論文の作成を指導した。	
(5)その他				
1	大学院博士前期課程論文審査 主査	2015.10-2	「日本におけるリエゾンナース(精神看護専門看護師)の活動実態と役割獲得に向けたプロセス」の研究審査を主査として担当した。	
2				
3				
4. 社会貢献活動				
(1)講演会、研修会等の講師				
	講演会、研修会等の名称	主催	講演、研修等のテーマ	開催年月
1	看護学生実習指導者講習会	埼玉県看護協会	小児看護学実習の展開	2015.6
2	オレム推進全体ワークショップ 総評	埼玉県立小児医療センターオレム推進会議	27年度活動報告と振り返り	2016.2.
3				
(2)国、自治体、財団法人等における委員等				
	国、自治体、財団法人等の名称	委員等の名称		任期
1	日本小児看護学会	評議員		
2	日本小児看護学会	専任査読者		2014.9.1.-2018.8.31.
3	日本小児看護学会	学術研究推進委員会 研究奨励賞選考委員		2015.11.-2016.7.
(3)ジャーナリズムでの発言				
	メディア等の名称	内容		年月
1	該当なし			
2				
3				
5. 学内運営(委員会委員)				
1	学部FD企画部会委員			
2				
3				
6. 受賞(研究、教育、社会貢献活動に関するもの)				
	受賞名	主催	受賞年月	
1	該当なし			
7. 特許の保有状況				
	特許名	特許番号	登録年月	
1	該当なし			
8. 特記事項				
	該当なし			